

市民協働推進事業補助金報告会審査会委員総評

審査委員長	岩崎恭典氏	四日市大学教授
審査副委員長	桜井温子氏	特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
審査委員	能村義則氏	北名古屋市役所総務部長
審査委員	田中寿美氏	北名古屋市民

毎年、報告会を行っていますが、北名古屋は子どもの育成とお年寄りの健康寿命の増進にすごく力を入れているなと思います。それが具体的な成果として出てきて、その間で抜けていた成人男子がイクメンという名前で出てき始めた、そうするともう1つ働きかけをしなければいけないのが小・中学校のお母さん方、お父さん方です。その方々をみなさん方の活動に組み入れるような観点というのは重要だと思います。特にこれから10年の北名古屋を考えていくとすごくそれは重要ではないかと思っています。ただその一方では急に言っただけでなかなか小学校では年間スケジュールが決まっていて無理という話も何件かありましたが、これはやっぱりどこかで調整しなければいけないだろうと思います。というのは私たちの団体は小学校に対してこんなプログラムが提供できます、夏休みの期間中にこんなことができます、あるいは平日の土曜日の授業が終わった後に、例えばボードゲームの大会ができますというような何かそういうメニューというものを調整する場、作成する場があって、それがそれぞれの小学校・中学校あるいは児童館に提供するメニューをまとめて、この中から選んでくださいと言って提供する、そういう仕組みというのがそろそろいるのかなというふうに思いました。つまり、こうしてみなさんが行っている活動を横につなぐ組織みたいなものが必要だと思っています。それからイベントは実行委員会方式でやるのが一番いいだろうと、固定化していくと徐々に仲間内だけになってしまうので、出入り自由の実行委員会方式が一番望ましいと思います。そういうものを支えるような仕組みが欲しい。もう北名古屋のみなさんは十分ご存じのとおり「あれやってこれやって」では市役所は回りません。そうじゃなくて「私たちがこういうことをやるから市は公としてこういうことを手伝って」とか、「私たちはこういうことをやりたいから、その条件整備をしてもらえないだろうか」という具体的な提案をしていく必要があるし、そういうことをこの補助金の仕組みでみなさんずっと勉強されてきているんだなということをつくづく実感しました。どうかこれから将来の10年に向けて、みなさん方の横のつながり方、得意技を持って集まるというその集まり方、役立て方についてみなさんから忌憚ない意見をいただければいいなと思っています。今日はどうもありがとうございました。